

ゆりんだより

2015.09

Vol.20

小さな虫博士たち

ほだか施設長 梅村 麻美子

中央有鄰の周辺は、現在開発の最中にあります。着任した3年前の春、施設は足元に黄色いタンポポの咲き乱れる梅林と、風にザワザワと揺れる青々とした竹林に囲まれる豊かな自然の中に建っていました。その後、開発が進み、今は住宅地の中の施設へと生まれ変わろうとしています。

それでも、施設周辺には、畑や野原など、まだまだ多くの自然が残っており、子ども達の絶好の遊び場となっています。今年の夏休みも、子ども達は、右手に虫捕り網を持ち、首から虫かごを提げて、朝から夢中でセミやとんぼ、ちようちよ、カエルを追いかけて過ごしておりました。一昔前、町でよく見かけたこのようなスタイルの虫好き少年・少女が中央有鄰ではまだまだ健在です。

最近の風潮として、虫は悪者扱いされ、子ども達は、虫と触れ合う機会が少なくなっているように思います。私は、ほだかの職員達に虫を見て「ワー！」とか「キヤー！」とか言わないようにして下さいとお願いしています。幼い子どもは心は真っ白で、いま心の地図を作っているところです。大人の好き嫌いを押し付けて先入観を植え付けたくないのです。子ども達、特に男の子は、虫との遊びの中で生きる力を受け取り、生命の手ざわりや重みを学んでゆきます。その大切な経験の機会を大人が奪ってはなりません。自然に恵まれた環境の中で、中央有鄰の子ども達が生き物とふれあい、生命の尊さを知る大人に育って欲しいと願っています。

これからも「梅ちゃん、行こう！」と声がかかったら、子ども達の散歩に同行し、一緒に虫捕りの楽しさを分かち合いたいものです。そして、子ども達が虫捕りに夢中になれる平和な日本がずっと続いてゆくことを願ってやみません。



いつになっても、この背中が大好き!!



個別での関わりを大切に
何気ない”あたりまえ”の生活の中で
笑顔がたくさん溢れています。

ゆりりん



家庭体験

おうちってどんなところ?
施設じゃない生活ってどんな風なのかな?
職員の家で“家庭”を体験してきました。



小さい頃お世話になった大好きな
元職員さんに会いに、兄妹仲良く長旅です



アニマルセラピー



月に1度、ゆりんの園庭に犬、カメ、
ニワトリ、モルモット等様々な動物が
やってきて、小さな動物園が開園します。
自分よりも弱い存在である、動物たちに
触れ合うことで、「思いやる心」
「愛する心」が育まれます。

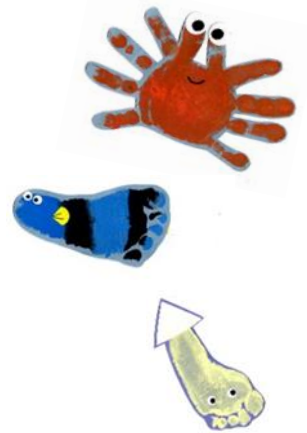
はじめてがいっぱいの夏！



ほだか



今年も泊まりで出かけた海水浴。職員も子どもたちも充実した1泊2日でした。はじめてのことに緊張したり、泣いたり：でも、につこり笑顔とちよつぱり日焼けした顔でほだかに帰ってきました。「ただいま」の声がいつもより頼もしく聞こえた気がします。「みんなおかえり！大冒険の海水浴だったね」



子どもたちの手と足あとを使って作りました。



ふれあいセンターおおだか

くちびっこの集い



暑かった夏。
楽しいことがいっぱいありました。

みんなで植えたプチトマトの収穫。OB、OGも参加の「流しそめんの会」では、お父さんも大活躍でした。

ゆうりんや地域の子どもたち、ちびっこの子どもたちで観た影絵、裏側の様子も見せてもらいました。

また、プール遊びを前にママたちは、日赤奉仕団の方々より、心肺蘇生法とAEDの使い方を習いました。

そしてプール遊び、乳児さんも楽しそう。その様子を見ているママはとっても幸せそうでした。

秋には、「お月見の会」や「昔の遊びを楽しむ会」、フェスティバル、赤ちゃん祭りがあります。

地域の皆様方に支えていただきながら、集いの広場は、楽しいことがいっぱい！



自立援助ホーム

きよつわ

くちびっこの食器洗い



毎日、頑張つて仕事をして帰ってくるきよつわの子どもたちにとって、食生活はとても重要です。職員が毎日、限られた予算の中で栄養のバランスを考えてメニューを決めて作っています。何が食べたいか聞くと、「久しぶりにカレーが食べたい」「麺類が食べたい」「辛いものにして」など、要求は様々です。

実は、食事が用意されない環境に育った子たちもいるため、必要に迫られて作っているうちに身につく、料理を器用にこなしてしまう子も多いのです。子どもたちも大好きな玉子焼きなどは、甘味や味付けなど、好みが分かれるところですが、時々、自らが自分流の玉子焼きを作り、お互いに食べ比べをしている姿も見られます。職員も味見を勧められますが、どれもとても上出来で、「お店が出せるよー」と褒めると、苦笑いをしています。

苦手なおかずが出された時には「それ嫌い」と小声でボンッと呟いたり、少しだけ食べて残りはこっそり捨ててあったりすることもあります。出されたものは、なるべく文句を言わずに食べようとする様子がみられ、美味しそうにパクパクと食べている姿には、育ち盛りの健全な活力が感じられ頼もしいものです。

また最近では、自分が使った食器類は自分で洗うという決まりを作ったところ、初めは嫌がる声もありましたが、子ども同士が声を掛け合い、本来は自分でやるべきことだと心に留め、今では全員ができるようになりました。

絵本の読み聞かせ

勉強会に取り組んで

ほだか保育士 生田 あさ美



ほだかでは、昨年度から月に1回、講師を招いて絵本の読み聞かせの勉強会をしています。職員も子どもたちも絵本に親しみを持ち、絵本を通して職員と子どもとの愛着形成を育むこと、一対一の関わりを大切にすることがねらいです。今年度からは絵本の読み聞かせに加えて、手遊び歌も勉強会に取り入れ、ほだかの子どもたちの遊びを、より充実させることが出来るよう取り組んでいます。



絵本の読み聞かせのポイント

1. 選書

- ・ 人数や年齢を考えて選ぶ
- ・ 季節の本を選ぶ
- ・ 読み手の好きな本ということも大切

読み手が好きな本というのは、読み手が幼少期に自分の親に読んでもらったことのある、うれしい思い出の詰まった本、また読んでもらったときに楽しい記憶がある本が多いです。読み手のそういった気持ちは、子どもたちに必ず伝わります。家庭の記憶がない子どもたちでも、職員に読んでもらった絵本は、あたたかな思い出になるはずです。

2. 読み聞かせる

- ・ 事前に絵本に開き癖をつけておく
- ・ 表紙、見返し、とびら、裏表紙と全てを見せる

- ・ 絵本は床に対して水平に持つ
- ・ 子どもの様子を感じながらめくる
- ・ 目線を絵本と子ども以外には向けない
- ・ 読み終わったらもう一度表紙を見せる

読み終わった後に、もう一度表紙を見せて、子どもが「もう一回」と言ってくれたら、読んでいた時間は、子どもにとつて、とても心地よい時間だったと感じてくれるということ。

読んだ後は、余韻に浸れるように、子どもたちの想像力が広がるようにしていくことが大切です。絵本の世界は、想像力にあふれる世界です。子どもたちの無限の可能性が広がるように後押しできると良いと思います。

以前のほだかでは、絵本を大切にできない子がいたり、ゆったりと1対1で絵本を読むことの重要性に職員が気づくことができなかつたりと、せっかくたくさんある絵本を生かしきれいでいけません。そこから、本棚をプレイルームに入れてもらって、子どもたちが絵本を取りやすいように環境を整えたり、破れてしまった本を修繕し

て、繰り返し使ったりすることで、日常に絵本がある生活になっていったように思います。

勉強会を始めてからは、絵本を職員の膝で読んでもらっている子どもたちの姿を多く見かけるようになりました。

以前は集中してお話を聞けなかつた子も、今では、「もう一回!」と言って繰り返し楽しむ姿が見られるようになりました。また、それが職員の自信にも繋がりに、とても嬉しい気持ちになります。

これからも職員自身が楽しみながら、ほだか全体で取り組んでいきたいです。



職員紹介

ゆうりん心理士

藤寄 真士



私は、中央有鄰学院に勤務して5年目になります。児童養護施設から自立援助ホームを経て、現在は児童養護施設へ戻り心理士として働いています。「心理士の仕事って何？」と聞こえてきそうなので、ここで心理士の仕事の一部を紹介したいと思います。

まず、今まで働いてきた中で自身の未熟さもあり、子どもに腹を立ててしまうこともたくさんありました。しかし、あくまでも問題なのは行動であって、子ども自身が問題ではないと思っています。そして、問題とされる行動の多くは未学習か誤学習が原因だと考えられます。

例えると、未学習は足し算を習っ

ていない状態です。誤学習は1+1=11と学習している状態です。この状態の子どもが足し算に苦戦している時、「頑張れ。」「何で出来ないんだ。」等と声をかけたとしても問題が解けるようになるはずがありません。それよりも、正しい足し算を教える方が良いことは明らかです。しかし、時として厳しい声かけだけをしてしまっていることに気付きます。

とはいえ、子育ては足し算のように簡単ではなく、一度学習した事を忘れることも簡単ではありません。一度自転車に乗れると、乗れない感覚に戻るのには難しいようです。

このように、心理士の重要な仕事の一つには、なぜ誤学習や未学習が起こったのかを想像し、子どもが社会に出てから困らない行動をどうすれば学習できるのかを考え、実践し、ケアワーカーや家族と共有するというものがあります。もちろん、この過程の中で子どものこれまでの生活や家族の生活について思いを馳せ、その努力の一つ一つを汲み取っていくことが重要であることは言うまでもありません。

子どものキラキラとした笑顔を少しでもたくさん見られるように、自分の経験と知識が少しでも使ってもらえるために日々精進していこうと思う今日この頃です。

調理員

田中 一子(かずこ)

・どうして調理員を目指したのですか
管理栄養士を目指したのは、中学生の頃。貧血になり、身体をつくる上で食べ物がとても大事なんだと実感したことがきっかけです。人が成長するところをみると自分も頑張らなきゃと思いますし、自分の糧となるんです。だから、子どもの成長に関わる仕事がしたかったんです。

・ゆうりん、ほだかおすすめメニューは？

ハンバーグは1個1個手焼きしてから、中を一斉に焼くので時間がとてもかかります。1食で110個くらい焼くんです。だからハンバーグの日は大変です。でもとても美味しいですよ。

・好き嫌いがあがる子にはどうしたらよいですか

無理やり食べさせないことが大切だと思います。でも、嫌いだからと言って料理に出さないのではなく、こんな食材もあるんだと知ること必要だと思います。乳幼児期、児童期に口にするこの経験は大切だと思います。

・小舎調理(ゆうりん)、おやつ作り(ほだか)で子どもたちと関わって感じることとは？

ゆうりんでは、ちいさい子の方が、お手伝いをやりました。自立目前の子は小舎調理のような自分で料理できる機会になかなか参加ができていません。自立していった子で「米が炊けない」と言う子もいたので、ちゃんと支援できればと思います。ほだかの

子は、今何を食べているのか大きくなった時に覚えていないと思うけど、安心して楽しく食べることが出来る経験が増えるといいなあと思っているのので、現場の職員さんと協力できたらと思います。

・休みの日の過ごし方は？

DIYをしていて板をやすりで削って、棚を作ったりしています。お酒は好きですが、人と一緒に飲むことが好きなので、家ではあまり飲みません。

・この仕事をしていて嬉しかったことを教えてください

「今日のお弁当全部美味しかった」といわれるのが一番嬉しいです。乳児さんでは、食べがよくなった。体重増えましたと聞くと嬉しいですが、言葉よりも、子どもたち一人ひとりが大きくなったと実感したときが一番嬉しいです。自分達で作る食事で、子どもたちが成長していると思うと、毎食毎食を大切に調理しなきゃと思います。



平成26年度 決算会計報告

勘定科目		法人本部	児童養護施設 ゆうりん	乳児院 ほだか	自立援助ホーム きょうわ	ヘルパーステーション ゆうりん	合計
事業活動収支の部	収入						
	介護保険収入	0	0	0	0	6,054,658	6,054,658
	利用料収入	0	5,000	62,750	1,845,546	664,719	2,578,015
	措置費収入	0	183,376,141	150,564,919	16,332,782	0	350,273,842
	運営費収入	0	0	0	0	0	0
	経常経費補助金収入	0	4,306,260	2,686,980	0	0	6,993,240
	寄附金収入	0	1,224,216	620,000	0	4,200,000	6,044,216
	雑収入	0	4,901,011	3,899,175	857,110	0	9,657,296
	借入金償還補助金収入	0	7,739,280	2,321,100	0	0	10,060,380
	引当金戻入収入	0	725,400	1,447,080	0	0	2,172,480
	国庫補助金特別積立金取崩額	0	5,241,354	961,605	0	0	6,202,959
事業活動収入計	0	207,518,662	162,563,609	19,035,438	10,919,377	400,037,086	
支出							
人件費支出	718,526	141,817,958	121,929,564	14,283,350	7,847,724	286,597,122	
事務費支出	202,874	15,108,054	17,213,667	3,593,616	1,459,361	37,577,572	
事業費支出	0	39,339,957	13,075,144	1,487,963	0	53,903,064	
減価償却費	30,150	11,076,722	6,769,148	127,094	0	18,003,114	
事業活動支出計	951,550	207,342,691	158,987,523	19,492,023	9,307,085	396,080,872	
事業活動外収支の部							
収入							
借入利息補助収入	0	0	0	0	0	0	0
受取利息配当金収入	8,438	10,341	16,904	1,136	444	37,263	
会計単位間繰入収入	0	0	0	0	0	0	
経理区分間繰入収入	16,904	0	0	0	0	16,904	
事業活動外収入計	25,342	10,341	16,904	1,136	444	54,167	
支出							
借入金利息支出	276,139	1,298,696	569,405	0	0	2,144,240	
経理区分間繰入金支出	0	0	16,904	0	0	16,904	
事業活動外支出計	276,139	1,298,696	586,309	0	0	2,161,144	
経常収支差額	▲ 1,202,347	▲ 1,112,384	3,006,681	▲ 455,449	1,612,736	1,849,237	
特別収支の部							
収入							
施設整備等補助金収入	0	0	0	0	0	0	
施設整備等寄付金収入	3,969,103	0	0	0	0	3,969,103	
固定資産売却益	0	0	0	0	0	0	
特別収入計	3,969,103	0	0	0	0	3,969,103	
支出							
基本金繰入額	0	0	0	0	0	0	
固定資産売却損・処分損	0	1	0	0	0	1	
国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	410,000	0	0	410,000	
特別支出計	0	1	410,000	0	0	410,001	
繰越活動収支差額							
前期繰越活動収支差額	7,577,297	▲ 6,836,236	97,441,160	4,699,864	0	102,882,085	
当期末繰越活動収支差額	10,344,053	▲ 7,948,621	100,037,841	4,244,415	1,612,736	108,290,424	
その他の積立金取崩額 (+)	0	0	0	0	0	0	
その他の積立金積立額 (-)	0	0	0	0	0	0	
次期繰越活動収支差額	10,344,053	▲ 7,948,621	100,037,841	4,244,415	1,612,736	108,290,424	

平成26年度 貸借対照表

資産の部	
勘定科目	当年度末
流動資産	139,110,649
基本財産	557,735,851
その他の固定資産	122,328,311
資産の部合計	819,174,811
負債の部	
流動負債	35,842,307
固定負債	174,914,450
負債の部合計	210,756,757
純資産の部	
基本金	197,936,315
国庫補助金等特別積立金	228,598,658
措置施設繰越積立金	50,000,000
施設整備積立金	23,592,657
次期繰越活動差額	108,290,424
純資産の部合計	608,418,054

平成26年度は、中央有鄰学院が社会福祉法人として、これからどう歩んでいくか、その布石を打った年でもありました。それは、常務理事職の設置です。これまで、児童養護施設、乳児院の本体事業を中心に施設運営を主として取り組んできましたが、今後は、法人が主体となって運営し、事業の継続を図る必要があります。

11月には新理事長を迎え、施設運営とともに、法人運営をより一層強化する体制を作りました。

・理事会の定期開催（奇数月に開催）
5月の決算月、翌年3月の予算月のほか、原則として奇数月に理事会を開催し、施設運営の報告とともに、その時々での課題について検討を行いました。

・中長期計画の策定
平成27年3月に「中長期計画」を策定、より一層の社会的養護の推進とともに、他領域での事業展開を視野に入れた法人運営を目指します。

・職員への法人の理念・基本方針の周知徹底
毎年度当初、職員全体会議にて理念、基本方針の確認を行うとともに、会議、ケースカンファレンス等あらゆる場面で、「理念」に立ち返って考え行動することの習慣づけを目指しています。

・地域に関わった法人及び施設運営
毎年恒例の「ふれあいフェスティバル」を開催しました（26年度は11月16日開催800名弱の方が来場）。また、D.V.おやじの会、鳴子踊り、大高秋祭りなど、地域の活動にも積極的に参加しています。

今後も、より地域に密着した事業運営を目指します。

平成26年度 社会福祉法人中央有鄰学院の取り組み

事務局通信

福祉サービスの事業者は、利用者からの苦情の適切な解決に努めることになっていきます。中央有鄰学院では、左記の通り苦情解決責任者と受付担当者を設けております。

ゆうりん

TEL 052(621)2441

苦情解決責任者 中上

受付担当者 小尾

ほだか

TEL 052(693)5628

苦情解決責任者 梅村

受付担当者 川瀬

きょうわ

TEL 0562(85)1880

苦情解決責任者 中上

受付担当者 奥野

〈第三者委員〉

福祉サービス苦情相談センター

TEL 052(910)7976

TEL 052(910)7977

FAX 052(910)7977

★催し物のご案内★
ふれあいフェスティバル2016

平成27年10月31日(土)

午前10時30分～午後2時

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関でお越しください。

今年のはろウインズ



平成27年4月1日から平成27年8月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同、敬称略)記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

石井祐治 福嶋俊郎 矢守信昭
佐藤友行 吉長敦子 鈴木義昭
西村登美子 服部 みどり
山本昌市 林正敏 海野十衣
岩崎奈々 下村康範 近藤得男
濱口政弘 高崎 理佳 稲垣輝美
川瀬 喜世美 山田 佐智子
志賀教夫 松山信 河井道子
山口ミツノ 浜島四郎 鈴木勝
山口 保 植田望 西川紀子
長谷川達也 永谷康信 種洋史
谷藤沙希 峰野充子 畔柳まどか
泉里紗 星野美弥子 星野雄大
富田咲良 寺尾法子 匿名

【法人】

荒川精肉店 トヨタ自動織機
霊友会「おもいやり連鎖運動」愛知
三重・岐阜県推進委員会
霊友会「ありがとうこだま基金」
セブンイレブン名古屋大高南店
グランドオータ888鳴海
タリーズコーヒージャパン(株)
オサムファーム 親切会中部支部
NPO法人こどもハートクラブ

ヒルズウオーク徳重ガーデンズ
金山橋連合商店街振興組合

緑区大好き23万人プロジェクト
実行委員会 中日新聞社会事業団
名古屋子ども青少年局

トヨタ部品愛知共販労働組合
ドクターズバンド 丸美産業(株)
NPO法人夢シート

中日本興業株式会社
名古屋南ロータリークラブ
バレエ・幸せプロジェクト

名古屋緑吹奏楽団 ショクブン
NPO法人ブックサポートONE
全日本司厨士協会 東海地方本部
葵ライオンズクラブ

中日ドラゴンズ 東ソーニッケ(株)
KEIZ大高店 中部善意銀行
共同募金配分金助成

木村スポーツ Shrimp
日本キリスト教団鳴海教会

中京大遊びグループ りんの会
東海アイスクリーム協会
(有)尾州商会 白水運輸



COLUMN

福祉の仕事をはじめ、30年を経ようとしている。長くやっていけばいいものではないことはわかっているが、よくも、続けてきたものだ、つくづくおもつ。



経験とは何か。長く続けていると、確かに様々なことに遭遇する。継続は力なりともいう。

しかし、経験年数は短くても、自ら挑戦し、時に失敗し、時に怒られ、それが自分の糧になる。

長さだけではかたことのできないもの、それが経験であろう。

そう、経験は、長さではなく、幅。

1年目の皆さん、幅のある経験を積んでください。

どんな仕事でも、自分を試されているとおもい、チャレンジしよう。

いつもの仕事に、少しだけ自分に負荷をかけ、挑戦してみよう。

それは幅となり、あなたの仕事人としての経験となり、成長へつながる。